

# 千年の森便り No.108

2012.09.20

ちば千年の森をつくる会

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

## 活動の記録

9月17日(月、休日)曇

参加は新井(通)、伊藤、鶴沢、甲斐、苅米、栗山、福島、根本、松本、真鍋、宍、村野、森の13名。

朝一番のニホンジカ調査に続き、グループに分かれ、植生保護柵内外の植生調査、マダケ林調査、広場の雨対策、植物調査、クロムヨウラン調査など行いました。きのこも色々ありました。



13名、分担してよく働きました

### ○ニホンジカ生息状況調査

3カ月に1回の割合で実施しているニホンジカ生息状況調査を行いました。いつものように7コースに分かれ、9:55~10:50で島内をくまなく探索しましたが、シカの目撃はありませんでした。痕跡については、巨木林エリアとホテイ岬の水位が低下して陸地が現れた部分で比較的新しい足跡が確認されました。(福島記)



シカ調査、7コースともシカの姿なし

### ○植生保護柵内外の植生調査

シカが島内の植生に与えている影響を明らかにすることを目的として、植生保護柵内外の植生調査を実施しました。今回は第1回目で、対象としたのはつり橋の近くのヤマユリ保護柵です。保護柵内と、保護柵の西側隣接地で植生調査票を用いて調査を行いました。シカの影響を受けやすいと考えられる低木層(1~3m)と草本層(0~1m)について比較した結果は以下のとおりです。

低木層はいずれもクロモジが優占し、植被率と種数は、柵内が40%、11種、柵外が40%、9種とあまり変わらなかったのに対し、草本層は、優占種、植被率、種数が、柵内ではコナラ、ヤマウルシ、60%、63種、柵外では、アセビ、20%、47種となり、柵外は柵内に比べて植被率、種数とも低くなりました。

実際に柵の中と外を比べて見てみると、草本層の植物の種類と量が多いの是一目瞭然ですが、植生調査を行うことにより植被率や種数でも明らかに違っていることがわかりました。(福島記)



柵内の植生調査は種数多く忙しい

### ○広場の雨対策

急な雨の場合などにはブルーシートをその上に乗せるだけで短時間に雨宿りができるような竹の骨組みをつくりました。苅米さん、根本さん、森さん、鶴沢さんの尽力です。

写真はブルーシートをかぶせたところです。着脱とも5分程度で、今後の悪天候の際などに大いに役にたってくれると思います。(伊藤記)



## ○マダケ林調査

11年発生竹、12年発生竹の2年分を一括して調査した7月調査の補完調査を行い、併せて過去の発生竹の存在を再確認しました。調査開始の06年以降、枯損した地上竹はありません。(伊藤記)

## ○キノコ調査

連日の短時間にザッと降る通り雨によって適度な湿度が保たれていたためか、きのこの発生は多かった。特に千年の森の夏きのこを代表するベニイグチ、セイタカイグチが見られ、落葉腐朽菌、木材腐朽菌も多く見られた。



ベニイグチ 2012.09.17 福島

観察したキノコは下記の27種、

うち\*印の5種は豊英島新確認種、

キシメジ科 オオホウライタケ、\*アマタケ、ヒロヒダタケ、ヒメカバイロタケ、  
\*シロホウライタケ、不明種2種

テングタケ科 ドクツルタケ、シロオニタケ、不明種1種

ハラタケ科 \*ナカグロモリノカサ、\*キツネノハナガサ

オキナタケ科 フミツキタケ属1種

イグチ科 キヒダタケ、イロガワリ、ニガイグチモドキ、ニガイグチ属1種 不明種2種

オニイグチ科 ベニイグチ、セイタカイグチ

その他 ツチグリ、アラゲキクラゲ、ハナビラニカワタケ、\*キアシグロタケ、不明種2種

(村野記)

## ○植物調査

新井さんはヤマユリ保護柵内にキク科のカシワバハグマ(コウヤボウキの仲間)を見つけました。5月に金網で保護したシュスランが1輪花を着けていました。花は豊英島初撮影です。クロヤツシロランの自生が確認されて3年目の開花期を迎え、巨木林とホテイ岬の落葉の下を探し廻りましたが、花を見出せません。今季こそ見逃さないよう9月下旬から10月初めにかけて、クロヤツシロランの花を探します。見つかるまで。(真鍋記)



シュスランの開花後?(9/17 福島)

## ○クロムヨウラン調査

宍 菇溌会員は8月・9月の定例活動日のほか臨時活動日にも入林し、植物班メンバー、東大の先生や先輩のご協力を得て、次のような活動を行いました。

(1) 巨木林植生保護柵内と柵外にクロムヨウラン調査区域を設定し、その中の全株に標識。

(2) 全株の生育状況調査と生長点測定、結実状況調査。

(3) 株標本採取

宍会員はこれから5年間、豊英島のクロムヨウランの生態、菌根菌、キノコや樹木との関連を調査、研究します。クロムヨウランは豊英島を特徴づける植物ですが、その生態や菌類との関係に未解明のことが多く、私たちにも関心の高い課題です。植物班やキノコ班のメンバーを始め、会員各位のご協力をお願いします。(真鍋記)

なおこの調査のため、東京大学新領域創成科学研究科から千葉県森林課に「豊英島におけるクロムヨウランの生態研究」について承認申請が行われ、8月14日付で承認されています。

## DVD「森をささえる木とキノコの共生」を見て

(松田弘義会員)

奈良一秀先生のDVD「森をささえる木とキノコの共生」を拝見しました。私は、森林インストラクターとして、森林の生態系、生物の多様性などについて、説明をしていますが、森をささえる樹木が、どのように栄養を取って生活をしているかという基本的な説明をする事があまり有りませんでした。この度の先生の講義で、樹木(植物)は栄養を根毛から直接吸収しているのではなく、根毛に取りまく菌根共生菌を介して吸収することを初めて知りました。また、森林の植生遷移には、菌根菌の介在が絶対不可欠であることも理解しました。これからも、森林を案内するとき、森林について、より深く、正しい知識をもって、解説をしていきたいと思えます。

### お知らせ

○9月の臨時活動日；9月25日火曜日、植物調査(クロヤツシロランの花探し、撮影など)クロムヨウラン調査(クロムヨウラン調査地の樹木調査など)、9時30分県民の森「木のふるさと館」駐車場集合。なおこの日クロヤツシロランの花を発見できない場合は、10月初旬にもう一度臨時活動日を設定します。

○10月の定例活動日；10月21日(日)秋のキノコ観察会、松田弘義会員ほかキノコ班のメンバーがご案内します。今回は会員外の参加者を募集しませんが、会員のご家族や友人の参加は可能です。9時30分県民の森「木のふるさと館」駐車場集合。